

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

年頭の「あいさつ」

市民の連帯の輪を広げよう

代表世話人 五十嵐正博



明けましておめでとうございます。

一九八八年八月一日に「非核の政府を求める石川の会」結成総会が開かれ、会報第一号が発行されたのは一二月三〇日でした。本会は、今年二五周年を迎えます。その間に、会報も装いを大きく変え、「非核・いしかわ」は第一七四号になります。「非核の政府を求める会」の設立趣旨は、「反核平和運動」と「私たちの政府」をつくるという「国民主権運動」をも統一して進めることにあります。この願いを一心に奮闘してこられた皆様、そして、本紙の編集に携われてこられた皆様に心より敬意を表します。

「九・一一」後、「安心・安全」標語が声高に叫ばれるようになりました。「安心・安全」は、すべ

事務局
〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

て国民が、「個人として尊重され」「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」が国政の上で、最大尊重されて実現されるものです。ところが、その標語は、危機をまおりつつ、「安全保障」と結び付けて、「対テロ戦争」や「北朝鮮の脅威」を利用して、「お国のために」を押し付ける「不安・危険」な「管理・監視」社会をつくりだしてきました。

また、「三・一一」後は、「絆」が合言葉のようになりました。「絆」は、原発建設を推し進めてきた政府と電力会社が、自らの責任を回避し、「復興」といつつ、被災された方々に対する補償も誠実に行動せず、国民全体の責任であるかのようにいってくる詭弁です。なぜなら、政府や電力会社は、原発立地計画を推し進めるために、札東で地域社会、はては家族の「絆」を「引き裂く」ことにまわ進んできたからです。もちろん、被災地に向いてボランティア活動をしている人々、被災者の方々をさまざまに支援されている人々の営みは尊いものです。

誰のための「安心・安全」か

しかし、権力側がつくった耳障りのよい、誰もが即座には反対しがたい標語や「神話」は、いつも疑



NHKで大河ドラマ「八重の桜」がスタートした。明治維新を負けた側の視点から——という触れ込みだが、東北全てが「負け組」ではないことは、あまり知られていない▼東北と越後の諸藩は「奥羽越列藩同盟」を結成して明治新政府に対抗した。しかし、私の故郷の秋田藩はあつという間にこれを裏切り、新政府の側についた。秋田は一応「勝ち組」である▼とは言っても、ただの田舎藩。お隣の岩手・南部藩や山形・庄内藩に、秋田城の間近まで攻め込まれた。最新式装備の庄内藩が会津救援のため兵を退いたので、かろうじて落城を免れた。私の先祖がいた地域は庄内藩の進撃路と重なり、秋田藩と行動を共にした支藩の城は焼かれた。先祖も、戦火に巻き込まれたようである▼勝ち馬に乗ろうとしたが、かえってひどい目にあつたという構図。いささかみつともない話である。新政府軍の勝利に貢献するどころか足を引っ張っただけなので、戦後の論功行賞もなし▼最近の政治情勢に重ね合わせると、「卒原発」を掲げた党との類似性を感じたり、なかなか考えさせられるものがある。(山)

つてかからなければなりません。「誰のための」「安心・安全」なのかを疑わなければなりません。歴史が示すように、「安心・安全」標語は（「開戦の詔勅は、「東亞ノ安定ヲ確保シテ世界ノ平和ニ寄與スル」と「平和のために戦争する」とまでいいました）、対外的には植民地の獲得、侵略戦争を正当化するために使われ、国内的には戦争標語「欲しがりません勝つまでは」と結び付けられ（まさに「絆」）、専制と隷従」を国民に強いることにもなったのです。「原発安全」神話しかりです。

日米同盟の深化は対米従属の深化

安部内閣は、「安心・安全」「絆」「日本を、取り戻す」などの標語を最大限に利用するでしょう。改憲の主な狙いが、九条にあることが公言され、改憲前にも「解釈」改憲により「集団的自衛権」を認めさせ、改憲後は、「国防軍」を創設するというのです。よくいわれる「戦争をする普通の国」にするのが目的です。また、「日米軍事同盟の深化」は、米国が、今後一〇年間に約四九〇〇億ドルの軍事費削減を迫られる中で、「新国防戦略」のもと、わが国の軍事予算の増強（オスプレイ配備さえも）、米軍基地の固定化（やがて辺野古移転の強行）、はては海外派兵まで目論むものです。「対米従属の深化」にほかなりません。ニューヨーク・タイムズ、エコノミスト誌までもが懸念する「極右安倍政権」のもとで、わが国は国際社会からも非難され、見放されることにもなりかねません。

改憲の目的が、「安心・安全」とも関連して、「国民の義務」をあらゆる面で押し付けることにあるこ

とも周知のことです。自民党政権は、これまでも、たとえば「周辺事態法」で、「我が国の平和及び安全」のためと、国民個人に米軍の後方支援業務などに直接従事することを義務づける道を準備してきました。「国民の義務」は、格差社会を当然のこととして、解雇され、賃金・年金が引き下げられ、医療費が上がっても「国民は黙って我慢し」（文句をいう権利さえない）「お国のために尽くしなさい」ということです。教育現場においては、「日の丸・君が代」の強制が強化され、教科書がさらなる危険にさらされます。自民党の目標は、「行き過ぎた平等の是正」、「家族・地域社会・国家へ帰属意識を持つ国民」、「良き歴史・伝統・文化を大切にする国民」を育成することです。さすがに「臣民」とはいつていませんが、要は従順な「臣民」を育てたいのです。

民主権運動と連帯し、ともに奮闘しましょう

私たちは、今回の衆議院選挙の結果、本来の「安心・安全」ではなく、これまで以上に「不安・危険」な「管理・監視」社会に転落するのを防ぐことができるか否かの重大な瀬戸際に立たされることになりました。かつてない憲法の危機的状況に向き合われています。権力がもつとも恐れるのは、「権力に立ち向かう連帯の輪」が広がることです。全国各地で行われている「反原発金曜デモ」は、市民社会が権力に異議申し立てをする新たな運動として注目されています。私たちは、市民の連帯の輪を広げるため（「民主権運動」）、改憲、原発などに反対する運動ともこれまで以上に連帯して、「私たちの政府」をつくるためにともに奮闘しましょう。

本年もよろしくお願い申し上げます。

（神戸大学大学院教授）

三・一ビキニデー

「核兵器のない世界へ」非核と九条輝く日本へ
あなたも参加しませんか！

一九五四年三月一日、アメリカはビキニ環礁で水爆実験を行いました。マグロ漁船「第五福竜丸」など近海で操業していた日本漁船の船員やマーシャル諸島島民などに広範な被害を与えました。

アメリカが起こしたビキニ水爆実験に、日本国民の反核平和の願いが爆発し、原水爆禁止運動の出発点になりました。

今年の三・一ビキニデーは「核兵器のない世界」を求める運動の流れを加速すること。安倍自公政権が進める憲法改悪に「NO」。原発即時ゼロを求め、TTP参加に反対するなど安全、暮らし、未来のための行動する運動と「連帯する」ことを目的にしています。開催地は静岡県焼津市はマグロの町です。石川県原水協は参加者を募っています。

二月二十八日出発く三月一日帰県、参加費二四三〇〇円です。参加希望される方は事務局までご連絡ください。また「三・一ビキニデー」学習用パンフレットは二〇〇円で普及中です。

非核の政府を求める会シンポジウム

核兵器禁止条約交渉の決断か、核抑止への固執か

原和人

一月二十二日、非核の政府を求める会のシンポジウム「核兵器禁止条約交渉の決断か、核抑止への固執か」が開催された。このシンポジウムには、大阪女学院大学の黒澤満氏、国際問題研究者の新原昭治氏、日本被団協事務局次長の児玉三智子氏、原水協国際部長の土田弥生氏がパネリストとして報告し、前長崎総合科学大学の藤田俊彦氏、気象学者の増田善信氏が特別発言を行った。



核兵器廃絶に向けての今日的情勢について話し
合われたシンポジウム (2012年12月22日)

核兵器なき世界の流れの今と明日

黒澤氏は、「核兵器なき世界の流れの今と明日」というテーマで報告した。冒頭、最近悪いニュースと良いニュースがある、悪いニュースは総選挙で自民党政権が誕生したことであり、良いニュースは、オバマが国務長官にケリー氏を指名したこと、ケリー氏は核軍縮に対して熱心であり、オバマ政権の核軍縮政策が進展する可能性について述べた。

「核兵器なき世界」へのアプローチには三つの道がある。

一つ目は、核兵器禁止条約(NWC)であり、NWCは、一九九六年の国際司法裁判所の「核軍縮交渉を誠実に継続し、締結する義務がある」という勧告以降、NWCのモデル条約が作成され、その後、国連ではマレーシア決議が毎年出されて、今年の国連総会でも支持を広げつつある。また、二〇〇八年のパンギブン国連事務総長の五項目提案が二〇一〇年のNPT再検討会議で論議され、決議案に「注目する」という文言が挿入された。

二つ目は、「人道的核軍縮」である。一九九六年の国際司法裁判所での「核兵器の使用または威嚇は、国際人道法に原則に一般に違反する」という判断により、スイスなどが中心になり、核兵器の禁止を呼びかけている。二〇一一年の国際赤十字・赤新月運動代表者会議では「核兵器廃絶に向かってすすむ」という決議を行った。また、二〇一二年NPT準備委員会では一六カ国声明が出され、一〇月の国連総会には三四カ国共同声明として広がっている。

三つ目の流れは、核兵器を非正当化する流れであ

る。二〇〇九年の核不拡散・核軍縮国際委員会(ICND)は、「核兵器を廃絶するためには、その役割・有用性の認識を変えることが決定的に大切であり、中心的な戦略的位置から周辺のなものに、不必要で望ましくないものに『非正当化』することである」とした。つまり、核兵器を「かっこいいもの」から「かっこ悪いもの」「役に立たないもの」という認識に変えていくことである。

以上をふまえて、今後の課題として、核軍縮は、従来の「ステップバイステップ・アプローチ」から「包括的アプローチ」に変化しており、「NWC」、人道的核軍縮、核兵器の非正当化の分野で運動をすすめるべきである。

次がないオバマ大統領は、この任期中に「核のない世界」に向けて大胆な行動を行う可能性があり、二〇一三年四月五日のプラハ演説四周年には、重大な核軍縮の行動または政策の演説を行うという観測もあると報告した。

核兵器全面禁止へー日本の反核運動の役割

土田氏は「核兵器全面禁止へー日本の反核運動の役割」というテーマで報告した。土田氏は、国連の諸会議に参加し各国の国連大使と懇談する中で、二〇一二年のNPT再検討会議での「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」という合意の実行が各国政府の懸命の努力がありながらも、関係者の間で「核軍縮の取り組みが遅い」という焦りがあることを報告した。それでも、NWCの交渉開始を求めるマレーシア決議が、昨年の一三〇を上回る一三五カ

国の賛同を得たことは評価できる。

一方、世界のNGOは、国連の核軍縮に関する歩みのろさに失望し、NPTを重視しない傾向もある。当面は三月のオスロ会議に集中し、NPT再検討会議の行動は今のところ具体的ではない。そのような状況にあっても、二〇一五年のNPT再検討会議にむけて、核兵器全面禁止に向けて運動を強める必要があると強調した。

アメリカ大統領選挙の結果と核政策の行方

藤田氏は、「アメリカ大統領選挙の結果と核政策の行方」というテーマで報告し、アメリカは、今年の国連の核関連決議でも、日本以外の提案に全て反対した。その中で、核兵器の禁止に向けての国連での決議を移行に移す「軍縮会議」や「軍縮委員会」が機能していない状況の下で、オーストリア、メキシコ、ノルウェーが中心になって提出した決議「多国間核軍縮小撤廃交渉を推進する」という決議にも英露仏とともに反対した。藤田氏は、オバマ第二期政権は、「主体的にも客観的にも、彼の政策の理想的側面の実現を押しさえこみ、プラグマティックな側面の実践を促すことになりそう」と予測した。

その他、新原氏は「異常なまでの日本政府の『核の傘』依存」、児玉氏は、被曝者としての立場から「核兵器廃絶と原爆被害の非人道性を世界に訴える」、増田氏は『黒い雨』調査にみる日本政府の被爆行政』について報告した。

(非核の政府を求める会・常任世話人)

講演要旨

脱原発の島で暮らす

講師：山戸 孝

二月二六日、片山津温泉で日本生活教育連盟・石川冬の集会が開かれ、上関原発反対運動のリーダーによる特別講演「脱原発の島で暮らす」があった。講演はまず自然豊かな祝島の紹介に始まり、本

州・九州・四国、下関・中関・上関との位置関係、島がハートの形をし、平均年齢七〇歳をはるかに超え、三五歳という講師自身の年齢はまだ「ひよっこ」であること、また島の踊りや祭りは粘り強さにつながり、高齢者の生活術としての匠の技は誇りだと語りました。そしてビワの栽培が他の産地より高く取りました。そのため特産品となり、更に無農薬栽培、ビワ葉茶、ネット販売などの試行錯誤の結果、原発が無くても生活できることを証明できた、と述べました。

島民の九割が反対する理由

次に、上関町では原発賛成が七割だが、祝島は反対が九割となる理由が述べられました。その第一は、祝島にとって目の前の原発建設予定地から朝日が昇り、定期船もその横を通り、祝島だけが背中側ではなく、まさに目の前の出来事であることです。

そして第二に、埋め立て予定地に海藻があり、魚の成育環境を破壊することになる。また海水の取水口と排水口の温度差は七℃あり、餌になるエビを含めて生態系が変わり、広島の一級河川の太田川が建設地に一本できることになる。高価な魚は逃げ、漁師は「仕事にならん」と言う。原発は海水の温暖化

装置であり、海藻につく卵の死滅を含め、環境破壊装置に他ならない、ということでした。

第三に、祝島からの出稼ぎで原発で働いていた人たちの経験で、放射線警報アラームがすぐに鳴るような危険な扱いを受け、放射性物質の付着のため、何度も洗わなければ外に出られない労働環境におかれたことで、島の人たちは原発の実態を心底理解して、反対したということです。

第四は、万一の避難の問題。祝島にとって九州や四国は背中側であり、上関町に行こうにも、原発の傍を通る他ない。平均年齢八〇歳近い島民は避難する場所も方法もない。避難に関する電力会社の回答は「地元自治体と県の仕事なので私たちにその責任はない」と全く無責任だということです。

祝島の反対運動が負けずたたかう理由

次に三〇年間、祝島の島民が負けずたたかえた理由について、その第一は一一五〇回を越える毎週一回の夕方一時間のデモが「原発反対」「綺麗な故郷を守ろう」のシュプレヒコールだけでなく、その合間の世間話などの交流が島民の絆を深めた、と語りました。

第二に、船や予定地での座り込みで、電力会社の人たちは「あなたたちのやっていることは違法」「どきなさい」などと言いたい放題だが、それに対して女の人たちが「あなたの嫁さんを原発の傍に住まわすことが出来るんかね」と意思を示したり、決して退かず、自分たちは決して手を出さず、相手にも手を出させない闘争を続けたこと。そうしてここに原発を建設して本当にいいのか、これほど反対して

いる人がいるのに敢えて強行するのかもしれないことを社会的に訴えていく、そういう在り方を貫いたことを挙げました。おカネより海を守りたいという意思を持って、漁業補償金の誘惑に負けずにたたかい、抗議行動などで逮捕者を出さず、少なくとも祝島の人たちは間違っていないという支持と共感を得、どうしたら道義的に正しく社会的支持を得ることが出来るのかを追求した。これが警察や保安庁が島の人たちを一方的に逮捕せず、祝島の反対運動が負けずにやれた理由だと語りました。

第三は、「祝島島民の会」の存在です。反対運動の経緯の中で成立し、合議制の運営委員会として改組し、情報の共有化を図り、全員集会で物事を決めるようになっていった。会は反対運動そのものが目的ではなく、その後も生きていけるような助け合いの組織として機能している。本当に原発に頼らずに島で生きていくには、自給的な生き方を共有して次の世代に示す必要があり、島の中で作れるエネルギーは自分たちで積極的に作っていくこうとしている。しかも耕作地の保全とエネルギーの自給を連結して、太陽光パネルの設置やブタの飼育などを併せて進めている。そんな人々の想いが地域の未来へと向かっていく組織となっている。

そして第四は、行政や電力会社への根底からの不信だと述べました。真夜中の工事再開の強行、「原発というのは確かに放射性物質を取り扱っているけれども、それ以外は普通の火力発電所と一緒。何がいけないのですか。」という態度。電力会社の人たちはやむなく原発建設の仕事をしているのであって、心のどこかに「島の人たちの言っていること

も分かるけど、自分も仕事で辛いんだ」という部分があるものと思っていたが心底、分かっている。「あんなに生活が出来ませんよ」「原発で働かせてアゲル」なんて、そんなこと言いますか。祝島の人たちは「イデオロギー的なものや左翼思想にそののかされて、仕方なく反対させられているのだ」「あなたたちの本心は原発反対運動はしたくないし、本当はもつとおカネが欲しいのでしょ」というのが電力会社の社員の本音として伝わってくる。島の人たちが何を大切にし、何を守りたいが故にこうやって

体を張って頑張っているのか、全く理解していないのがものすごく腹が立つし悲しくなる、と述べました。こんな彼らに原発を作らせていいのか、こんな彼らに原発を稼働させていいのか、という根底からの不信感。そして漁業権を持ち漁をしなくとも漁業補償金だけに入る漁師、他の漁法も併せ持っている漁師は原発に賛成しがちという理不尽に負けられないというもどかしさがあつたから、反対運動が三〇年間続いたのではないかと語りました。この根底にカネがある、とも述べました。

“全ては繋がっている”

そしてまとめとして、“全ては繋がっている”とし、岩国の錦帯橋の橋桁の一部が大雨の二日後に祝島に届いた話をされました。山が痩せ魚が少なくなっているが、海の世界はあらゆるものの環境と共有なのであり、祝島の海だけが単独で存在しているわけではない、祝島に原発を立てさせないのはあらゆる環境保全のスタートなのであり、とても目先のおカネと引き換えにできません、と語りました。島で

海と共に生きることがどういうことなのか、関心を持っていただけたら嬉しい、と語って講演を終えました。(文責・編集部)

中沢啓治さんのご逝去を悼む

ゲンは泣かない

『はだしのゲン』をひるめる会

理事長 浅妻南海江

『はだしのゲン』の作者中沢啓治さんが昨年一月一九日肺がんのため故郷広島で逝去されました。享年七三歳でした。

あの日、炎の中でこの世の地獄を見た幼い少年は天命かと思われるほど奇跡的に命を救われました。原爆の記憶から遠ざかりたいという心の葛藤を乗り越えて二八年後、自伝『はだしのゲン』を発表。生前ご自身でも『ゲンを描くために助けられたと思う』と述懐しておられます。あまりにも過酷な体験から描かれた『はだしのゲン』は核の時代を生きる私達に貴重なメッセージを伝え続けています。唯一の被爆国である日本の一国民として被爆の実相を決して風化させてはならないと思います。

ゲンが様々な言語で出版されていることを大層喜んで「あいつあーがんばっていますな」と満面の笑みを浮かべて喜んでおられた中沢さんのご様子が思い起こされます。

「これ以上にはない恐怖を体験したから恐ろしいものはなにもない」とおっしゃっていた通り潔い生きざまは小気味よく、正義感の強い自由の人でした。

一二月九日、『はだしのゲン』をひろめる会の設立総会の時はご入院中で、意識が朦朧としている中、奥様の代筆でメッセージをお寄せくださいました。



ひろめる会設立総会にメッセージを寄せていただいた
中沢啓治さん（写真提供 坂東弘美）

「ゲンは地球上を何百回も何千回もはだしで駆け巡り、愚かな戦争と核兵器を無くすために頑張る決意でございます。皆さん、ゲんに力を貸してやってください。ゲンは逞しく生き抜いていくことですよ。」

苦しい息の下、尚もゲンの活躍を願う作者の遺稿となったこのメッセージを胸に、志を同じくする仲間と手を携えてゲンの共連れとして多くの子どもや若者たちに出会う旅を続けたいと思います。合掌。

非核石川の会 リレーエッセイ

最近思うこと

松葉博

総選挙前、日本維新の会の石原慎太郎代表が「いまの世界の中で核を持つていない国は、外交的に圧倒的に弱い」「核兵器に関するシミュレーションぐらいやったらいいと思う」と発言をしました。日本の政党の代表者として驚くべき発言で、本当にビックリしました。

総選挙の結果、自公が衆議院で三分の二を超える議席となりました。安倍自民党総裁は他党と協力して、憲法九六条を改定して憲法改定の発議要件のハードルを引き下げると話しました。自民党は総選挙で憲法九条を変えて「国防軍」の設置を公約しています。戦後の日本の平和運動にとって、最大の山場かもしれません。

戦後六七年が経過し、戦争中の体験を語れる人が減ってきました。私の母親はいま八一才。「満蒙开拓団」の引揚者です。私は小さい頃から、その悲惨な苦労話を聞かされてきました。でも母親はその体験をいまだに身内以外には語ったことがありません。「人には話せない」と言っています。それだけ深い心の傷があるのだと思います。ましてや、広島や長崎での被爆体験は、想像を絶するものでしょう。いま六〇代、五〇代の人は、親から何らかの戦争体験を聞いています。私も、母親の戦争中の体験話が、今の自分の生き方に大きく影響しています。

総選挙の投票率は戦後最低で、前回より一千万人の多くの人が棄権しました。多くの人が迷って

ます。一方、三・一一以後、新しい人たちが様々な運動に参加しています。震災や原発、TPP問題から出発して、今の政治のあり方に疑問を持ち、さらに政治活動への参加へと発展しています。まだ全体から見れば、小さい流れかもしれませんが。でもやがて国を動かす大河になるでしょう。またそうしなければなりません。

毎年のように総理大臣が変わるなど、日本はまさに激動の時代を迎えています。二〇一三年、私も元氣な母親と一緒に微力ながら歩みたいと思います。

二〇一五年NPT再検討会議に向けて 学習を強めよう

内藤 晴一郎

二〇一五年の核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて、核兵器を禁止する交渉を開始するなどの声が強まっています。昨年の国連総会では、核兵器禁止条約の交渉開始を求めるマレーシア決議がこれまでで最多の一三五カ国の賛成で採択されました。北朝鮮や中国、インド、パキスタンなどの核保有国も賛成しました。

原爆投下による、甚大な被害を与えた、ヒロシマやナガサキを繰り返させてはならないという核兵器の非人道性の観点から、核兵器を禁止しようという流れも生まれています。昨年の国連総会には、スイスやオーストリア、NATO加盟国であるノルウェーやデンマークなど三五カ国が、核兵器非合法化の努力を求める声明文を出しました。

残念ながら日本政府は、三五カ国の声明に賛成せず、マレーシア決議にも棄権し続けています。日本

政府が核兵器禁止に背を向けるのは、アメリカの「核の傘」に依存して自国の安全保障を核兵器に頼っているからです。

いま私たちがとりくんでいる「核兵器全面禁止のアピール」署名は、二〇一一年二月から始めて二五〇万筆余り集まっています。石川県では一三五〇〇筆集めました。今年スイス・ジュネーブで開かれるNPT再検討会議第二回準備委員会や、一〇月の国連総会に提出します。

国連への署名提出行動が、国連軍縮局のホームページに紹介されるなど、一筆一筆の署名が、「核兵器のない世界へ」と努力する国々や国際機関を励ましています。「もつと多くの署名を集めてほしい」との期待の声も寄せられています。

一月二六日(土)一〇時半より「北陸原水協学校IN いしかわ」が石川県教育会館で開催されます。日本原水協代表委員の高草木博さんを迎えて、「核兵器廃絶の展望」を話してもらいます。長年にわたり事務局長として原水禁運動で世界をリードしてきた高草木さんのお話は、聞き逃せません。ぜひご参加ください。

詩人会議かなざわ「独標」より

ナナカマドが死にました

喜多村 貢

何の前ぶれもなく
それは突然やって来た
植樹して六年目
さあこれから大きくなる

という時に

お前はあっさり枯れてしまった

俺達の愛情が足りなかったのは認める

でも それだけのことで

気弱になるお前ではなかったはずだ

だって 北からの風雪に

首をへし折られながらも

去年は赤い実をつけたじゃないか

体の中に取り返しつかない

病魔が潜んでいたのかもしれない

知らない間に どこかの誰かに

毒を注入されたのかもしれない

いやいや セシウムまで降る世の中に

嫌気がさしたのかもしれない

少し淋しがり屋な奴だと

うわさに聞いていたから

隣に話好きなヤマボウシを

連れて来てやったのに

どうして SOSのシグナルを

出してくれなかったのかい

いのちは自分のものと思ひ込んでいた

生きていれば

自由自在に出来るものと疑わなかった

しかし いのちは気紛れ

意に反して裏切ることもあるのだ

平然として

空は何事もないかのように

晴れたり曇ったり

山は緑いっぱいに萌え広がる

誰もナナカマドの枯れたことに

気づかない

関係のないものに人はいつも無関心

ヤマボウシひとりにしておくには

忍びないからと

二代目を植えることにした

運命をものともしない

骨太な奴に

今度は 明日を託そう

和定例句会報より

宿題「代わり映え」

佳作

岡田一杜選

代わり映えせぬ顔ぶれが勝ち誇り

茂明

死に票が代わり映えせぬせ政府生む

林

代わり映えなく生保費仕分けおぞましき

啓

ひな壇に代わり映えせぬ古い顔

林

次期政府代わり映えせぬ民いじめ

和子

秀作

戦犯担ついで右翼の土俵入り

大峰

軸

議事堂に代わり映えせぬタカが棲む

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙版 竹味恭子



《非核平和・行事予定》

- 一月二五日(金)一八時半：第一五回平和団体合同新春の集い・新春放談／佐藤清城北クリニック医師・石川県教育会館二階・会費二千元
- 一月二六日(土)一〇時半：北陸原水協学校 I N いしかわ／基調報告：高草木博日本原水協代表理事／石川県教育会館二階
- 一月二七日(日)二月三日(日)能美市長と市議補欠選挙
- 一月二七日(日)：オスプレイ配備撤退・普天間基地撤去東京集会
- 一月二九日(火)一八時：非核の政府を求める石川の会 常任世話人会・近江町交流プラザ四階
- 二月二日(土)一〇時：むぎわらぼうし例会・「はだしのゲンが見たヒロシマ」DVD上映／近江町交流プラザ四階

- 二月六日(水)一二時半：核廃絶署名 M z a 前
- 二月一〇日(日)一三時：石川県社会保障推進協議会・新春社会保障講演会／講師：横山寿一金沢大学教授／石川県教育会館二階会議室
- 二月一日(月)休一三時半：建国記念日反対・平和と民主主義を考える集い／「平和運動としての困窮者支援―ホームレス支援から見えたもの」講演：奥田知志ホームレス支援全国ネットワーク代表・北九州市東八幡キリスト教会牧師・NHKクローズアップ現代などテレビ出演多し／近江町交流プラザ四階
- 二月一七日(日)一四時半：わらび座公演「おもいでぼろぼろ」金沢歌劇座・わらび座観る会推薦
- 二月二五日(月)一三時半：小松爆音訴訟公判
- 二月一七日(日)二月二四日(日)白山市議員選挙
- 二月二二日(水)非核の政府を求める会常任世話人会・東京
- 二月二四日(日)：原水爆禁止石川県協議会総会(予定)
- 二月二七日(水)三月一日(金)三・一ビギナー焼津市
- 三月六日(水)一二時半：核廃絶署名 M z a 前
- 三月九日(土)非核の政府を求める会原発問題シンポジウム・東京
- 三月九日(土)一四時：証言映画「もういいかい・ハンセン病と三つの法律」労済会館三階ホール・参加費千円／主催ハンセン病支援・共に生きる石川の会
- 三月一〇日(日)一三時半：東日本大震災・福島原発事故から二年・フクシマを忘れない―即時原発ゼロ、志賀原発廃炉、被災者支援三・一〇集会―その後一五時二〇分パレード
- 三月一〇日(日)一七日(日)：中能登町・宝達志水町各町長選挙

《編集室より》

- 三月二四日(日)：加賀九条の会総会と講演／講師：岩淵正明弁護士
- 三月三〇日(土)一三時半：「渡辺治講演会」労済会館三階ホール／主催：九条の会・石川ネット
- 四月六日(土)七月(日)：非核の政府を求める会東海北信越ブロック交流会相談会・石川県かほく市で開催
- 四月九日(火)一二時半：核廃絶署名 M z a 前
- 四月二三日(土)一四日(日)：新藤兼人監督「一枚のハガキ」上映会・県内各所・主催九条の会有志の会
- 五月三日(金)休：輝け九条！憲法施行六八年石川県民集会・講演内容未定／石川県文教会館／主催：九条の会・石川ネット

◎国民を裏切り続けた結果、民主党の惨敗、自民党の大勝となった。しかし完全勝利でないことをマスメディアは報道しないが庶民は見抜いている。安倍総理は浮かれ酔って、経済界への大判振る舞いで景気浮揚を叫んでいる。国防軍にするとか、集団的自衛権の行使とか、生活保護費を削るとか、また原発推進とTPPへ参加などのたまっている。庶民は消費税の増税を止め、給料を上げ、非正規雇用を正規雇用置き替えることを先ず一番に要求している。今号で五十嵐正博代表世話人は国民主権運動を市民社会の運動と連帯し行動することを呼びかけている。参議院選挙へ向けて、誰か任せでなく、これまで蓄積してきた叡智とエネルギーを今ここで発揮しよう。短期全力投球は明日からではない、今からです。(平)